

マルコの福音書（青年マルコの記録）

すべての人に気を配り、いたわり、愛し続けるイエス。どんな時でも、苦しみ、悲しみ、助けを必要としている人々に仕え続けられるイエス。そして、最後には、全人類の救いのために、ご自分のいのちまでも投げ出されたイエス。本書は、そういうイエスの姿を見、行動を共にした使徒ペテロの語る思い出話の数々を、イエスが逮捕される時、逃げた青年（マルコ一四・五一、五二）と思われているマルコが記録したものです。

一

1 神の子イエス・キリストの世にもすばらしい物語の始まりは、こうです。

2 神様が地上にご自分のひとり子を遣わされることと、彼を迎える準備のために特別な使者を送られることとは、預言者イザヤがずっと以前に告げていました。

3 「この使者は、不毛の荒野に住み、すべての人に呼びかける。『生活を正せ。主をお迎えする準備をせよ』と、イザヤの書物に書いてあります。

バプテスマのヨハネの働き

4 この使者とは、バプテスマのヨハネのことです。彼は荒野に住み、人々にこう教えました。「罪を赦していただくために、悔い改めて神に立ち返れ。そして、そのしるしにバプテスマ（洗礼）を受けるのだ。」 5 このヨハネのことばを聞こうと、エルサレムばかりか、ユダヤ全国から大ぜいの人が詰めかけ、次々と今までの悪い思いや行ないを神様に告白しました。ヨハネはそういう人たちに、ヨルダン川でバプテスマを授けていたのです。 6 らくだの毛で織った着物に、皮の帯、いなごとはち蜜が常食という生活を送りながら、 7 彼は次のように宣べ伝えました。

「私よりもはるかにすばらしい方が、もうすぐおいでになる。私など、その方のしもべとなる値打もない。 8 私は水でバプテスマを授けているが、その方は聖霊様によってバプテスマをお授けになるのだ。」

9 そのころ、イエスもガリラヤのナザレから来て、人々といっしょに、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。 10 ところが、イエスが水から上がられたちょうどその時、天がさっと開け、聖霊が鳩のようにご自分の上に下って来られるのが見えました。 11 そして天から、「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」というお声が聞こえました。

12 このあとすぐ、聖霊はイエスを荒野へ追いやりました。 13 イエスは、そこで四十日間、野獣と共に過ごし、罪を犯させようとするサタンの誘惑をお受けになりました。しかし後には、御使いたちがやって来て、イエスに仕えていました。

14 ヨハネがヘロデ王の命令で逮捕されると、イエスはガリラヤに行き、神のすばらしい知らせを宣べ伝えました。

15 「いよいよ、来るべき時が来ました。神の国が近づいたのです。皆、悔い改めなさい。このすばらしい知らせに従って行動するのです。」

イエス、弟子を集める

16 ある日、イエスがガリラヤ湖の岸边を歩いておられると、シモンとアンデレが兄弟で網を打っている姿が目に入りました。二人は本職の漁師でした。

17 イエスは声をおかけになりました。「さあ、ついて来なさい。人間をとる漁師にしてあげましょう。」18すると二人はすぐ網を置き、イエスについて行きました。

19 もう少し先に行かれると、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとが舟の中で網を修繕しています。20そこでまた、この二人もお呼びになりました。二人とも、父と雇い人たちとを舟に残したまま、イエスについて行きました。

21 さて、一行はカペナウムの町にやって来ました。土曜日の朝、イエスはユダヤ人の礼拝所である会堂へ出かけて、教えを語られました。22それを聞いた会衆は驚きました。イエスの話し方が、これまで聞いてきたのとは、まるで違っていたからです。イエスはやたらに他人のことばを引用せず、権威をもって堂々と話されました。

イエス、大ぜいの病人を治す

23 ところが、その会堂に悪霊に取りつかれた人がいて、大声で叫びだしました。24「やい、ナザレのイエス！ おれたちをどうしようというんだい。おれたちを滅ぼすために来たんだろうが。あんたのことはよく知ってるぜ。そうとも、神のきよい御子様よ！」

25 イエスは、悪霊にそれ以上は言わせず、「その人から出て行きなさい！」とお命じになりました。26すると、悪霊は大声をあげ、その人を激しく引きつけさせて、出て行きました。27この有様に聴衆は肝をつぶし、興奮のあまり口々に論じ合いました。

「いったい、どうなってるんだ！」

「悪霊どもさえ、命令を聞くななんて……。」

「新しい教えなのかね。」

28 イエスの評判は、たちまちガリラヤの全地方に広まりました。

29 このあと、会堂を出た一行は、シモンとアンデレの家に行きました。30あいにく、この時シモンのしゅうとめは、高熱にうなされて、床についていました。イエスはそれを知ると、31さっそく彼女のそばに行き、手を取って助け起こされました。するとどうでしょう。たちまち熱が下がり、すっかり元気になったしゅうとめは、みんなをもてなすために、いそいそと食事の用意を始めたのです。

32 日の沈むころになると、シモンの家の庭は、イエスに治していただくために連れて来られた、病人や悪霊に取りつかれた者たちで、いっぱいになりました。33また戸口には、カペナウム中の人たちが詰めかけ、がやがや騒ぎながら中の様子をながめていました。34イエスはこの時も、大ぜいの病人を治され、悪霊を追い出されました。しかも、悪霊にひと言も口をきかせませんでした。悪霊は、イエスがどういう方か知っていたからです。

35 翌朝、イエスは夜明け前に起き、ただ一人、人気のない寂しい所へ行行って祈られま

した。

36 そのうちに、あちらこちらとイエスを捜し回ったシモンたちが来て、37「みんなが先生を捜してますよ」と言いました。

38 イエスは、「さあ、ほかの町へ出かけましょう。そこでも教えなければなりません。わたしはそのために来たのですから」とお答えになりました。

39 こうしてイエスは、ガリラヤ中をくまなく回り、会堂で教え、悪霊に取りつかれた人を大ぜいお助けになりました。

40 ある時、一人のらい病人がやって来て、イエスの前にひざまずき、熱心に頼みました。「お願いでございます。どうか私の体をもとどおりに治してください。先生のお気持ちひとつで治るのですから。」

41 イエスは心からかわいそうに思い、彼にさわって、「そうしてあげましょう。さあ、よくなりなさい」と言われました。42すると、たちまち、らい病はあとかたもなくなり、完全に治ってしまいました。4344「これからすぐに祭司のところへ行き、体を調べてもらいなさい。途中で寄り道や立ち話をしてはいけません。健康な体に戻ったことを明らかにするために、モーセの命じたとおりの供え物をしなさい。」

45 イエスにきびしく止められたにもかかわらず、男は、うれしさを抑えきれず、この出来事を大声でふれ回って歩きました。そのため、イエスの回りにはみるみる人垣ができ、公然とは町へ入れなくなりました。しかたなく町はずれにとどまっておられました。そこにも、人々が大ぜい押しかけて来ました。

二

1 数日後、イエスはカペナウムに戻られました。イエス来訪のニュースはたちまち町中に伝わり、2人々がいっぱい集まって来ました。家は足の踏み場もないほどで、外にまで人があふれています。この人たちに、イエスは神の教えを語られました。3その時、四人の人が、担架で中風の男を運んで来ました。4しかし、群衆をかき分けて中へ入ることもできません。そこで、屋根にのぼり、穴をあけると、そこから病人を担架に乗せたまま、イエスの前へつり降ろしました。

5 必ず治してもらえると、堅く信じて疑わない彼らの信仰をごらんになって、イエスは中風の男に、「あなたの罪は赦されました」と言われました。

6 ところが、その場にいた何人かのユダヤ人の宗教的指導者たちの心中は、おだやかではありません。7「なんだって！ 神様を汚すことばだ。いったい自分を何様だと思っているのか。罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに。」

8 イエスはすぐに、彼らが心の中で理屈をこねているのを見抜かれました。「どうして、そう思うのですか。9-11この人に、『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、メシヤ（救い主）のわたしが罪を赦したという証拠を見せてあげましょう。」イエスは中風の男のほうに向き直られ、「あなたはもうよくなりました。床をたたんで、家に帰りなさい」と言われまし

た。

12 すると、男はとび起き、床をかかえ、あっけにとられている見物人を押し分けて、出て行ってしまいました。「こんなことは、見たこともない！」人々は口々に叫び、心から神を賛美しました。

13 イエスはまた湖畔に行き、集まって来た大ぜいの群衆にお教えになりました。14 岸辺を歩いておられると、税金取立所にアルパヨの子レビが座っています。「ついて来なさい。わたしの弟子になりなさい。」イエスの呼びかけに、レビはさっと立ち上がり、あとに従いました。

15 その夜、レビは、イエスを夕食に招待しました。その席には、取税人仲間や、評判の悪い人たちも大ぜい招かれていました。イエスに従う者には、この種の人々も多かったのです。16 しかし、これを見たパリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のある学者たちは、気持ちがおさまりません。弟子たちに詰め寄りました。「おまえさんたちの先生は、どうして、こんなくずみたいな連中といっしょに食事をするのか。」

17 彼らの非難に、イエスはこうお答えになりました。「丈夫な者に医者はいりません。病人こそ医者が必要なのです。わたしは自分を正しいと思っている人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」

パリサイ人の非難

18 バプテスマのヨハネの弟子やパリサイ人たちは、断食のおきてを守っていました。ある時、彼らが来て、「どうして先生のお弟子さんたちは断食しないのですか」と問いました。

19 イエスは、こうお答えになりました。「花婿の友達は、披露宴の席で、ごちそうに、はしをつけなかったり、嘆き悲しんだりはしません。20 しかし、やがて花婿が彼らから引き離される日が来ます。その時には断食するのです。21 こう言えばわかるでしょう。水洗いしていない新しい布で、古い着物の継ぎ当てをしてごらんください。どうなりますか。当て布は縮んで着物を破り、穴はますます大きくなってしまいうでしょう。22 新しいぶどう酒を古い皮袋に入れることもしません。そんなことをしたら、皮袋は張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらもだいなしでしょう。新しいぶどう酒には、新しい皮袋が必要なのです。」

23 ある安息日のこと、イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。その時、弟子たちは麦の穂を摘んで、食べ始めました。

24 これを見たパリサイ人たちは、「お弟子さんたちがあんなことをするなんて！安息日に刈り入れをするのは、おきて違反なのをご存じのはずでしょう」と抗議しました。

25 26 しかしイエスはお答えになりました。「ダビデ王とその家来たちが空腹でがまんできなかった時、神殿に入って〔当時アビヤタルが大祭司でしたが〕、祭司以外に食べてはいけない特別のパンを食べたという記事を、読んだことがないのですか。それもおき

てに反することでしょう。 27 いいですか。 安息日は人間のためにつくられたのであって、人間が安息日のためにつくられたものではありません。 28 しかしメシヤ（救い主）のわたしには、安息日に何をしてよいかを決める権威もあるのです。」

三

1 カペナウムで、イエスがまた会堂に入られると、そこに片手の不自由な男がいました。

2 その日は安息日だったので、イエスに敵対する者たちはみな、イエスの行動に目を光らせていました。 この男の手を治しでもしたら、それをきっかけに逮捕してやろうとたくらんでいたからです。

3 イエスはその男を呼び、会衆の前に立たせられました。 4 それから、敵対する者たちのほうを向いて言われました。 「さあ、答えてください。 安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいですか。 安息日は、いのちを救う日ですか。それとも殺す日ですか。」しかし、だれも押し黙っています。 5 イエスは、人の不幸に対する彼らの冷淡さ、頑固さを深く嘆き、怒りを込めて見回すと、片手の不自由な男に、「さあ、手を伸ばしてごらんなさい」と言われました。 男がそのとおりにすると、たちどころに治ってしまいました。

6 おさまらないのはパリサイ人です。 すぐ会堂を飛び出し、ヘロデ党の者たち（ヘロデ王を支持する政治的な一派）と、イエスを殺す計画を相談し始めました。 7 8 一方、イエスと弟子たちは湖のほとりへ立ちのかれましたが、それでも、ガリラヤ全地、ユダヤ、エルサレム、イドマヤばかりか、ヨルダン川の向こう岸、さらにツロやシドンといった遠方からも、たくさんの群衆がやって来て、あとについて行きました。 イエスの奇蹟の評判が広まるにつれ、「ひと目でいいからイエス様を見たい」と、人々が押しかけたからです。

9 イエスは、群衆が岸辺に押し寄せても大丈夫のように、弟子たちに小舟を一そう用意させました。 10 その日、多くの病人が治されたと聞いて、病気の人たちがみな、何とかしてイエスにさわろうと詰めかけたからです。

11 また、悪霊に取りつかれた人たちは、イエスを見さえすれば、その前にひれ伏して、「あなたは神の子です！」と叫ぶのでした。 12 イエスは彼らに、ご自分のことをだれにも口外してはいけないと、きびしく警告なさいました。

選ばれた十二人

13 その後イエスは丘に登り、今までに選ばれた者たちを召集されました。 皆が集まったところで、 14 十二人の者を特に選び出されました。 いつもそば近くに置き、彼らに、神のすばらしい知らせを宣べ伝えさせたり、 15 悪霊を追い出させたりするためでした。

16 - 19 十二人の名前は次のとおりです。

シモン〔イエスによって「ペテロ」と名づけられた〕、

ヤコブとヨハネ〔ゼベダイの息子で、イエスから「雷の子」と呼ばれた〕、

アンデレ、

ピリポ、
バルトロマイ、
マタイ、
トマス、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
タダイ、
シモン〔「熱心党」という急進派のメンバー〕、
イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。

20 イエスが、泊まっていた家に戻られると、群衆がまた集まって来ました。 まもなく家の中は人でいっぱいになり、食事をする暇もないほどです。 21 これを身内の者たちが聞き、力づくでも、イエスを家に連れ戻そうとしました。 てっきり、イエスは気が変になったと思ったからです。

だれがイエスの兄弟、姉妹か

22 しかし、エルサレムから来ていたユダヤ教の教師たちは、こんなふうになんかうわさしました。 「やつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているのだ。 だから、手下の悪霊どもがやつを言うことを聞いて、おとなしく引き下がるのさ。」

23 イエスは、こんなことを言う人々をそばに呼び、だれもがわかるように、たとえを使って話されました。 「どうしてサタンがサタンを追い出せるのでしょうか。 24 内部で分かれ争っている国は、結局自滅してしまいます。 25 争い事や不和が絶えない家庭は、崩壊するだけです。 26 サタンの場合も全く同じことです。 内部で争っていたら、何もできないばかりか、生き残ることさえできません。 27 強い人の家に押し入って、その財産を盗み出すには、まずその強い人を縛り上げなければならないでしょう。 悪霊を追い出すには、まずサタンを縛り上げなければならないのです。」

28 これは大切なことだから、はっきり言います。 人が犯す罪は、どんな罪でも赦してもらえます。 たとい、わたしの父を汚すことばでも。 29 しかし聖霊を汚す罪だけは、決して赦されません。 それは永遠の罪なのです。」

30 こう言われたのは、彼らが、イエスの奇蹟は聖霊の力によるものだとは認めず、サタンの力によるのだと言いふらしていたからです。

31 さて、イエスの母と弟たちが、教えを聞く人々でごった返す家に来て、話があるから出て来るように、とことづけました。 32 「お母様と弟さんたちが、お会いしたいと外でお待ちです」と言われて、 33 イエスはこうお答えになりました。 「わたしの母と兄弟とは、それはいったい、だれのことですか。」

34 それから、ぐらりと回りを見渡し、「この人たちこそわたしの母であり兄弟です。 35 だれでも、神のお心のままに歩む人が、わたしの兄弟、姉妹、また母なのですよ」と言われました。

神の国のたとえ話

1 イエスが湖のほとりで教えておられると、またもや大ぜいの群衆が集まって来ました。それでイエスは小舟に乗り、そこに腰をおろして、お話しになりました。 2 イエスが人々に教えられる時には、たとえ話を使うのが普通でしたが、この日の話は次のようなものでした。

3 「よく聞きなさい。 農夫が種まきをしました。 畑に種をまいていると、 4 ある種はあぜ道に落ちました。 すると鳥が来て、その種を食べてしまいました。 5 別の種は土の浅い石地に落ちました。 初めは急速に生長した種も、 6 土が浅いため、根から十分養分を取ることができず、強烈な日差しの中で、すぐに枯れてしまいました。 7 また、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、生長をはばみ、結局、実を結べませんでした。 8 けれども中には、良い地に落ちた種もありました。 その種は、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげることができたのです。 9 聞く耳のある人はよく聞きなさい。」

10 その後、イエスが一人になられると、十二人の弟子と、ほかの弟子たちが、そろってイエスに尋ねました。 「先生。 さっきのお話はどういう意味でしょう。」

11 イエスはお答えになりました。 「あなたがたには、神の国の真理を知ることが許されていますが、ほかの人には隠されているのです。 12 預言者イザヤが言ったように、『彼らは見もし、聞きもするが、悔い改めて神に立ち返り、その罪を赦していただくことはない』のです。 13 ところで、こんな簡単なたとえ話がわからないのですか。 こんな調子では、これから話すほかのすべてのたとえ話は、どうなることでしょう……。

14 いいですか。 農夫とは、人々に神のことばを伝える人のことです。 このような人たちは、聞く人の心に良い種をまこうとします。 15 ある種が落ちた、踏み固められたあぜ道とは、神のことばを聞いても心を堅く閉ざした人のことです。 すぐにサタンがやって来て、そのことばを忘れさせてしまうのです。 16 17 土が浅く石ころの多い地とは、最初は喜んで神のことばを聞く人の心を表わしています。 ところが、そんな地に落ちた種は、根を深くおろすことができません。 だから、初めのうちこそうまくいっても、迫害が始まると、たちまちぐらついてしまうのです。

18 19 いばらの地とは、神のすばらしい知らせに耳を傾け、それを受け入れる人の心を表わしています。 けれども、すぐにこの世の魅力、金もうけの楽しさ、成功欲、物欲のとりこになり、神のことばなどは心からはじき出されて、実を結ぶまでには至らないのです。

20 良い地とは、神のことばをまちがいなく受け入れ、神のために、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげる人の心を表わしています。」

21 イエスは、続けてお話しになりました。 「せっかく灯をともしたランプに箱をかぶせ、光をさえぎる人がいるでしょうか。 もちろん、いません。 それでは意味がありませんから。 だいたいランプというものは、台の上に置き、あたりを照らしてこそ、存

在価値があるのです。

22 いま隠されているものはみな、いつかは明るみに出されます。 23 聞く耳のある人はよく聞きなさい。 24 また、聞いたことは必ず実行しなさい。 そうすればするほど、わたしの言ったことがわかるようになります。 25 持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているわずかな物さえ取り上げられてしまうのです。

26 神の国のたとえを、もう一つ話しましょう。

ある農夫が畑に種をまいて、 27 家に帰りました。 日がたつにつれて、別に何もしなくても、種はどんどん生長しました。 28 土が種を生長させるからです。 まず芽が出て、次に穂、そして最後に実が入ります。 29 すると、さっそく農夫が刈り取るのです。」 30 また、こうも言われました。 「神の国をどう説明し、何にたとえたらいいでしょう。 31 そうですね、神の国は小さなからしの種みたいです。 からしの種は、種の中でも一番小さいものですが、 32 生長すると、とても大きくなり、鳥が巣を作れるほどになります。」

33 このように、イエスは多くのたとえを使い、人々の理解力に応じて教えられました。

34 たとえを使わずに話をなさることはありませんでした。 しかし弟子たちにだけは、あとでその意味を説き明かされました。

35 夕やみの迫るころ、イエスは弟子たちに、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。 36 弟子たちは群衆をあとに残し、イエスの乗った小舟をこぎ出しました。 しかし、あとからついて来る舟も、何そうかありました。 37 ところが、まもなく、恐ろしい嵐が襲って来たのです。 小舟は大波にほんろうされ、舟は水浸しです。 38 イエスはと見れば、ともものほうで眠っておられます。 弟子たちは気が気ではありません。 半狂乱のていでイエスを呼び起こしました。 「先生！ 舟が沈みかけているのに、よく平気でいられますねっ！」

39 イエスはゆっくり起き上がられると、風をおしかりになり、湖に「静まれっ！」と言われました。 するとどうでしょう。 たちまち風はやみ、湖は何事もなかったかのような大なぎになりました。

40 イエスは弟子たちに言われました。 「どうしてそんなにこわがるのですか。 まだわたしが信じられないのですか。」

41 弟子たちは、ただもう恐怖に打ちのめされて、「ああ、なんというお方だ。 風や湖までが従うとは！」と、ささやき合いました。

五

イエス、悪霊を追い出す

1 やがて一行は湖を渡り、向こう岸のゲラサ人の地に着きました。 2 イエスが小舟をおりる間もなく、悪霊に取りつかれた男が墓場から走って来て、イエスを迎えました。

3 4 この男は墓場に寝起きしていましたが、すごい強力で、手かせ足かせをはめられても、たちまち引きちぎって逃げってしまうのでした。 そんなわけで、だれもこの男を取り押さえ

ることができません。 5 昼も夜も、大声でわめき、とがった石で体をかきむしりながら、墓場や山の中をさまよい歩いていました。

6 この男は、イエスがまだ遠く湖上にいる時からその姿を認め、走って来たのです。そしてイエスの前まで来ると、いきなり地にひれ伏しました。

7 8 その時です。 イエスは男に取りついている悪霊に、「悪霊よ、出て行きなさい」とお命じになりました。すると悪霊は、ぞっとするような声で、「おれ様を、ど、どうしようというんだい。 お願いだから、苦しめないでくれーっ！ いと高き神の子、イエス様」とわめきたてました。

9 イエスが「あなたの名前は？」とただされると、「レギオン(ローマ軍隊の一軍団)だ。おれたちは大ぜいでこいつに取りついてるんでね」と、悪霊は答えました。

10 それから、自分たちを遠方へ追い払わないでほしいと、しきりに頼み続けました。

11 その時たまたま、湖畔に沿った丘の上で、豚の大群がえさをあさっていました。 12 悪霊どもは、「おれたちをあの豚の中へやってくれ」と願いました。

13 イエスが、お許しになると、悪霊はすぐさまその男から出て、豚の中に入りました。とたんに、二千匹もの群れがいっせいに、がけを駆け降り、湖に飛び込んでおぼれてしまいました。

14 豚飼いたちは近くの町や村に逃げて行き、この出来事をふれ回りました。人々は、自分の目で確かめようと、ぞろぞろ出かけて来ました。 15 たちまちイエスの回りは黒山の人ばかりです。 しかも、うわさの男は、ちゃんと服を着、すっかり正気に戻って座っているではありませんか。 人々は恐ろしくなりました。 16 初めからこの出来事を目撃していた人たちが、みんなに一部始終を説明しました。 17 それを聞くと、人々はイエスに、かわりあいになりたくないから、どこかへ行ってくれ、と願い始めたのです。

18 イエスはまた舟に乗り込みました。悪霊に取りつかれていた男が、「ぜひお伴を」と願いましたが、 19 お許しにならず、「家族や、友人のところへお帰りなさい。 神がどんなに素晴らしいことをしてくださったか、また、どんなにあわれんでくださったかを話してあげなさい」と言われました。 20 男はさっそく、デカポリス(十の町)地方を回り、イエスがどんなに素晴らしいことをしてくださったかを知らせました。 その話を聞いた人々はみんな驚きました。

イエス、少女を生き返らす！

21 イエスがもう一度、舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆が詰めかけました。

22 そこへ、その地方の会堂管理人で、ヤイロという名の人に来て、イエスの前にひれ伏しました。 23 娘を助けてほしいというのです。「先生。 娘が危篤なんです。 まだ、ほんの子供なのに……。 どうぞ、娘の上に手を置き、治してやってください。」

24 必死の願いに、イエスはヤイロといっしょに出かけました。 群衆は押し合いへし合い、イエスについて行きました。 25 さてその中に、出血の止まらない病気で十二年間も苦しみ続けてきた女がいました。 26 大ぜいの医者にかかり、さんざん苦しい目に

会い、治療代で財産をすっかり使い果たしてしまいましたが、病気はよくなるどころか、悪化する一方でした。 27 イエスがこれまでに行なったすばらしい奇蹟の数々を耳にした彼女は、人ごみにまぎれて近づき、背後からイエスの着物にさわりました。

28 「せめてこの方の着物にでも手を触れさせていただければ、きっと治る」と考えたからです。 29 さわったとたん、出血が止まり、彼女は病気が治ったと感じました。

30 イエスはすぐ、自分から病気を治す力が出て行ったのに気づき、群衆のほうをふり向かれて、「今、わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。

31 「こんなに大ぜいの人がひしめき合っているのですよ。 それなのに、だれがさわったのかと聞かれるのですか。」弟子たちはげんな顔で答えました。

32 それでもなお、イエスはあたりを見回しておられます。 33 恐ろしくなった女は、自分の身に起こったことを知り、震えながら進み出てイエスの足もとにひれ伏し、ありのままを、正直に話しました。 34 イエスは言われました。「あなたの信仰があなたを治したのですよ。 もう大丈夫です。 いつまでも元気でいるのですよ。」

35 こう話しておられるうちに、ヤイロの家から使いの者が来て、娘は死んでしまったので、来ていただいても手遅れだと伝えました。 36 しかしイエスは、ヤイロに言われました。「恐れてはいけません。ただわたしを信じなさい。」

37 イエスは、群衆をその場にとどまらせ、ペテロとヤコブとヨハネのほかは、だれにもついて行くことをお許しになりませんでした。 38 ヤイロの家に着くと、だれもかれもが取り乱し、大声で泣いたり、わめいたり、たいへんな騒ぎです。 これを見たイエスは、 39 中に入られ、「なぜ、泣いたり、わめいたりしているのですか。 子供は死んだものではありません。 ただ眠っているだけです」と言われました。

40 それを聞いた人々は、イエスをあざ笑いました。 しかしイエスは、全員を家の外に出されると、娘の両親と三人の弟子だけを連れて病室に入られました。

41 そして娘の手を取り、「さあ、起きなさい」と声をおかけになりました。 42 するとどうでしょう。 少女はぱっととび起き、ぐるぐる歩き回るではありませんか！ [娘はこの時、十二歳でした。] 両親は、ただあつけにとられて見守るばかりです。 43 イエスは、このことを決して口外しないようにと、きびしくお命じになってから、少女に何か食べさせるようにと言われました。

六

1 まもなくイエスはその地方を去り、弟子たちを連れて故郷の町ナザレに帰られました。

2 3 次の安息日に、会堂へ出かけて話をなさると、聴衆はその知恵と奇蹟にすっかり驚きました。 イエスのことを、自分たちと同じ、ただの田舎者だと思っていたからです。

「あいつのどこがおれたちと違うというんだい。 ただの大工のせがれじゃないか。 母親はマリヤだし、ヤコブやヨセやユダやシモンは兄弟だ。 妹たちだって、おれたちといっしょにここに住んでるじゃないか。」町の人たちはイエスに腹を立てました。

4 そこで、イエスは言われました。「預言者はどこででも尊敬されます。 ただ、自

分の故郷、親族、家族の中では別です。」

5 こうして、人々の不信仰のために、ほんのわずかの病人に手を置いて治されただけで、そこでは何一つ大きな奇蹟を行なえませんでした。 6 イエスは、自分を信じようとしなないナザレの人たちの態度に、驚かれました。

このことがあってから、イエスは付近の村々を巡り歩いて、お教えになりました。 7 また、十二人の弟子を呼び、悪霊を追い出す力を与えると、二人ずつ組にして送り出されました。 8 9 そして、携行品は杖だけにし、食料も旅行袋も、お金も、はき替えのくつも、着替えの下着も持って行ってはいけませんと、注意されました。

10 また、続けて言われました。 「どこの村でも、一軒の家に泊まるように。 あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。 11 もしその村が、あなたがたを門前払いにし、あなたがたのことばに耳を貸そうともしないなら、そこから出る時、足のちりを払い落としなさい。 それは、その村を滅びるに任せたというしるしです。」

12 こうして、弟子たちは出て行き、出会ったすべての人に、悔い改めて神に立ち返るようにと教え、 13 多くの悪霊を追い出し、オリーブ油を塗って大ぜいの病人を治しました。

ヨハネの死

14 イエスの奇蹟は至る所で話題になったので、まもなく、ヘロデ王の耳にも入りました。 王は、このイエスがバプテスマのヨハネの生き返りだと考えました。 そして人々も、「だからこそ、イエスにはあんな奇蹟ができるのだ」とうわさしました。 15 中には、預言者エリヤが生き返ったのだと考える者もあり、いや昔の偉大な預言者たちのような新しい預言者だ、と主張する者もありました。

16 しかしヘロデは、「いや、あれはわしが処刑したヨハネに違いない。 ヨハネが死人の中から生き返ったのだ」と言いました。

17 18 実はこのヘロデが、兵士たちに命じて、ヨハネを捕らえ、投獄したのです。 ヨハネがヘロデに、兄嫁のヘロデヤを横取りするのはよくないと抗議したからです。 19 ヘロデヤはその腹いせに、ヨハネを殺してやろうと思いましたが、ヘロデの許可なしには、何の手出しもできません。 20 ヘロデが、ヨハネを正しくきよい人物だと知って、尊敬し、保護していたからです。 ヘロデはヨハネと話をすると、決まって不安にかられましたが、それでも好んで聞いていました。

21 ところが、とうとうヘロデヤに絶好のチャンスが訪れました。 それはヘロデの誕生日のことでした。 王は、宮中の高官、高級将校、ガリラヤ地方の名士などを招待して、宴会を開きました。 22 その時、ヘロデヤの娘が居並ぶ客の前で舞をまい、一同をたいそう楽しませました。 喜んだ王は、「ほしいものはないか。 なんなりと申せ」と言い、 23 その上、「国の半分をやってもよいぞ」と誓ったのです。

24 娘は出て行って、母親と相談しました。 すると母親は、しめたとばかり、「バプテスマのヨハネの首をいただきたいと申し上げなさい」と入れ知恵しました。

25 娘は、王の前に進み出ると、「今すぐ、バプテスマのヨハネの首を、盆に載せていただきます」と言いました。

26 王は困ったことになったと心を痛めましたが、誓ったことでもあり、また一同の手前もあって引込みがつきません。 27 やむなく護衛兵に、獄中のヨハネの首を切り、その首を持って来るように命じました。 兵士は言われたとおり、 28 ヨハネの首を盆に載せてきて、ヘロデヤの娘に渡しました。すると、娘はさっそく、それを母親のところへ持って行きました。

29 ヨハネの弟子たちはそのことを聞くと、遺体を引き取り、墓に葬りました。

五つのパンと二匹の魚

30 さて、十二人の弟子は旅を終えてイエスのもとに帰り、自分たちのしたこと、また行った先々で人々に教えたことなどを、くわしく報告しました。

31 イエスは弟子たちに言われました。「さあ、しばらく人ごみを避けて休みましょう。」イエスのもとには人の出入りが多く、食事をする暇もなかったからです。 32 彼らは舟に乗り、静かな場所へ出かけました。 33 ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、岸づたいに走って行って、一行が上陸するのを待ちかまえていました。 34 舟から上がられたイエスの前には、大ぜいの群衆がたむろしていました。まるで羊飼いのいない羊のような群衆を見て、イエスは深くあわれみ、いろいろなことを教え始められました。

35 36 午後遅くなって、弟子たちがイエスのところに来ました。「先生。この人たちに、近くの村や農場へ行って、めいめいで食べ物を買うように言っていただけませんか。こんな寂しい所では、何もありません。それに時刻も遅いことですし……。」

37 しかし、イエスは言われました。「あなたがたが、この人たちに食べ物をあげるのです。」

「何ですって！ いったい何を食べさせたらいいんですか。この大ぜいの人たちに。そんなことをしたら、破産してしまいますよ。」

38 「手持ちの食べ物がどのくらいあるか、見て来なさい。」こう言われて、弟子たちは調べに行きました。その結果は、パンが五つと魚が二匹あるだけでした。 39 40 イエスは、群衆に座るようにお命じになりました。まもなく、五十人から百人ほどの色とりどりのグループが、それぞれ一団となって緑の草の上に座りました。

41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、感謝の祈りをささげると、パンをちぎって、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。魚も同様になさいました。

42 群衆は、もうこれ以上は食べられないというほど、たらふく食べました。

43 44 その場で食事したのは、男だけでも五千人はいました。あとで草の上のパンくずを拾い集めると、なんと十二のかごにいっぱいでした。

45 それからすぐ、イエスは弟子たちに、舟に戻り、先にベツサイダまで行くようにお命じになりました。あとで弟子たちと落ち合うつもりで、イエスだけその場に残り、群衆を解散させられたのです。

46 そのあと、イエスは山へ登られました。 祈るためです。 47 夜になり、舟に乗った弟子たちは湖の真ん中までこぎ出していましたが、イエスはただ一人、陸地におられました。 48 ふと、ごらんになると、弟子たちは向かい風と波のためにこぎあぐね、危険にさらされています。 夜明けの三時ごろ、イエスは水の上を歩いて彼らに近づき、そのままそばを通り過ぎようとされました。 49 ところが、弟子たちは湖上を歩くイエスを幽霊と見まちがい、恐怖のあまり大声をあげました。 50 皆が、おびえてしまったからです。 イエスはすぐに、「安心なさい。 ほら、わたしです。 こわがることはありません」と声をおかけになりました。 51 イエスが舟に乗り込まれると、風はぴたりとやみました。 弟子たちは訳がわからず、ただぼんやりと座っているだけでした。 52 前日の夕方、あれほどの奇蹟を目のあたりにしながら、弟子たちには、イエスがどんな方か、まだわかっていなかったのです。 彼らは、初めから信じようとしていなかったからです。

53 一行は、湖の向こう岸のゲネサレに着き、舟をつなぎました。 54 彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気づき、 55 その地方全体に、イエスがおいでになったとふれ回りました。 寝たままの病人が次々にイエスのもとに運び込まれました。 56 イエスがおいでになると、村でも町でも農場でも、人々は病人を広場に寝かせ、せめて着物のすそにでもさわらせてやってくださいと、必死に願うのです。 こうして、さわった者はみな治りました。

▪

七

本当に大切なのは心

1 ある日、ユダヤ人の宗教的指導者たちが数人、イエスを調べてやろうと、わざわざエルサレムから出向いて来ました。 2 そして、イエスの弟子の中に、ユダヤの食前のしきたりを守らない者がいるのを見つけました。 3 そのしきたりというのは、ユダヤ人の中でも特にパリサイ人たちがやかましく守っているものでした。 古くからの言い伝えで、食事の前には必ず、腕からひじにかけて水を注ぐ決まりだったのです。 4 また市場から帰って来た時には、食べ物に触れる前に必ず体に水を注ぎかける決まりもありました。 そのほかにも、水差し、なべ、皿を洗うことなど、何世紀ものあいだ守り続けてきた、こまごまとしたおきてやしきたりがあったのです。 5 そこで、宗教的指導者たちはイエスに、「どうしてあんたの弟子は、昔からの言い伝えを守らないのか。 手も洗わないで、食事をするとはいけしからん」と詰め寄りました。

6 イエスはお答えになりました。「あなたがたこそ偽善者です。 預言者イザヤが言ったのは、あなたがたのことだったのです。

『彼らは口先ではわたしを敬うが、
心はわたしから遠く離れている。』

7 彼らがわたしを拝んでも、むだなことだ。

神のおきての代わりに、
人間の規則を教えているのだから。』
なんと的を射たことばでしょう。

8 あなたがたは、神の特別な命令をないがしろにして、自分たちの言い伝えを代用として
いるのです。 9 それを守るために、よくも神のおきてを捨て、踏みにじったものです。

10 例をあげましょう。 モーセは、『あなたの父と母とを敬え』というおきてを神から
託され、あなたがたに伝えました。 また、父や母をののしる者は死刑に処せられるとも
言いました。 11 12 ところがどうです。 あなたがたときたら、『すみませんが、お助
けするわけにはまいりません。 差し上げるはずのものは、神様にささげてしまいました
から』と言いさえすれば、助けを求める両親をおろそかにしてもかまわない、と教えてい
るのです。 13 あなたがたは自分たちのつくった言い伝えを守るために、神のおきてを
破っているのです。 これは、ほんの一例にすぎません。 ほかにも同じような例がたく
さんあるのです。」

14 イエスは、もう一度群衆を呼び寄せられ、「さあ、よく聞いて、その意味を考えなさい。
15 16 人は決して外から入る食べ物によって汚されるのではありません。 むし
ろ内から出て来ることばや思いによって汚されるのです」と言われました。

17 それから群衆と別れ、家に入られました。 すると弟子たちが、「さっきのおことば
は、どういう意味でしょうか」と尋ねました。

18 イエスはお答えになりました。「こんなことがわからないのですか。 食べ物は人を
汚さないということが、そんなに不思議なのですか。」 19 いいですか。 食べ物は別に
人の心に入るわけではないでしょう。 腹に入って、外へ出るだけではありませんか。 こ
うして、あらゆる食べ物がおきてにかなうきよい物であることを示し、 20 さらに続け
て言われました。 「人の内側から出るもの、それがくせものです。 21 肉欲、盗み、
殺人、姦淫、 22 貪欲、邪悪、あざむき、好色、ねたみ、悪口、高慢、あらゆる愚かさ、
それらのものはみな、人の心の中からあふれ出ます。 23 この内側から出て来るものが、
人を汚し、神にふさわしくない者とするのです。」

広まるイエスのうわさ

24 イエスはガリラヤを去り、ツロとシドンの地方に行かれました。 内緒の旅行でした
が、いつものように、イエス来訪のニュースは、あっという間に広がってしまったのです。

25 小さな娘が悪霊に取りつかれて困っていた母親が、うわさを聞いて駆けつけました。
彼女はイエスの前にひれ伏すと、 26 娘から悪霊を追い出してくださいと、必死で頼み
ました。 実は、この女はスロ・フェニキヤ人で、ユダヤ人から見れば、「軽べつすべき外
国人」でした。

27 イエスは女に言われました。 「わたしはまず、同胞のユダヤ人を助けなければな
りません。 子供たちのパンを取り上げて、小犬に投げてあげるのはよくないことなの
です。」

28 「おっしゃるとおりでございます。でも先生、食卓の下の小犬だって、子供たちのパンくずは食べるではありませんか。」

29 この答えにイエスは感心しました。「実に見上げたものです。さあ、安心して家にお帰りなさい。悪霊はもう、娘さんから出て行きましたよ。」

30 女が家に戻ってみると、娘は静かにベッドに横たわっており、悪霊は出たあとでした。

31 イエスはツロをあとにし、シドンからデカポリス（十の町）地方を通って、ガリラヤ湖畔にお帰りになりました。32 その時、人々が、耳も聞こえず、口もきけない男を、イエスのところに連れて来て、「どうぞ、手を置いて治してやってください」と頼みました。

33 イエスはその男を群衆の中から連れ出し、自分の指を男の両耳に差し入れ、それからつばきをして舌にさわられました。34 そして、天を見上げてふっとため息をつき、「開け」とお命じになりました。35 するとどうでしょう。耳は完全に聞こえるようになり、舌のもつれもとけて、はっきり話せるようになったではありませんか。

36 イエスは群衆に、うわさを広めないようにと堅く口止めされましたが、そう言えば言うほど、人々はかえって言い広めました。37 イエスのなさったことに、驚き、あきれたからです。「ああ、なんてすばらしいことをなさるお方だろう。耳が聞こえず、口もきけない人さえ、お治しになった！」と、人々は何度も言い合いました。

八

1 そのころ、またおびただしい群衆が集まって来ましたが、みんなの食べる物がなくなったので、2 イエスは弟子たちを呼んで言われました。「この人たちがかわいそうです。もう三日も、わたしといっしょにいるのだから、食べ物とはつくにないはずですよ。

3 このまま帰らせたら、きっと途中で倒れてしまいます。中には遠くから来た人もいることでしょうし……。」

4 「でも、先生。こんな寂しい所で、これほど大ぜいの人たちなんですよ。いったいどこで、食べ物を手に入れるのですか。」

5 「パンは幾つありますか。」

「七つです。」

6 イエスは、群衆に地べたに座るようにお命じになりました。そして七つのパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、ちぎって弟子たちに手渡され、弟子たちがみんなに配りました。7 まだ小さい魚が少しばかりあったので、これも同様に祝福してから、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。

8 9 こうして、全員が満腹するほど食べました。それからイエスは、人々を家にお帰しになりました。その日集まった人の数はおよそ四千人でしたが、あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごにいっぱいになりました。

ダルマヌタへ

10 このあとすぐ、イエスは弟子たちと舟でダルマヌタ地方へ向かわれました。 11

その地方のパリサイ人たちはイエスが来られたと知り、議論をふっかけてやろうと、勇んでやって来ました。「奇蹟を見せたらどうだい。天に不思議なしるしが現われでもしたら、あんたを信じようじゃないか。」

12 このことばに、イエスは思わず、ため息をおつきになりました。「とんでもありません。いったいどれだけ奇蹟を見れば気がすむのですか。」

13 イエスは彼らを残して、また舟に乗り、湖の向こう岸に渡られました。14ところが、弟子たちがうっかり、出発前に食べ物を用意するのを忘れたので、舟の中にある食べ物といえば、一かたまりのパンだけでした。

15 まだ湖上にいた時、イエスは弟子たちに、厳粛なお顔で、「ヘロデ王とパリサイ人たちのイースト菌に気をつけなさい」と言われました。

16 弟子たちは、「先生は、なぜあんなことをおっしゃったんだろう」と首をかしげましたが、結局、パンを持って来なかったからだろうということに、話が落ち着きました。

17 弟子たちが「ああでもない、こうでもない」と言い合っているのを聞いて、イエスは言われました。「いや、そんなことはありません。まだわからないのですか。なんて物わがりの悪い人たちでしょう。18ちゃんと、目も耳もそろっているのに、見えても聞こえてもしないのですか。何も覚えていないのですか。19五つのパンを五千人に食べさせた時のことを。あの時、パンくずは幾かごになりましたか。」

「十二かごです。」

20 「じゃあ、七つのパンで四千人に食べさせた時は？」

「七かごです。」

21 「それなのに、まだあなたがたは、パンがないのを、わたしが苦にしていると思うのですか。」

22 一行がベツサイダに到着すると、人々が盲人の手を引いて来ました。「どうか、さわって治してやってください」と頼むので、23イエスはその盲人の手を取り、村の外へ連れ出されました。そして彼の両眼につばきをつけ、手をあてて、「どうですか、何か見えますか」とお尋ねになりました。

24 男はあたりをきょろきょろ見回しながら、「は、はい。見えます。見えます。人が見えます。ぼんやりしていますが……。まるで、木が歩いてるみたいです」と答えました。

25 イエスはもう一度、両眼におさわりになりました。男はじっと見つめていました。するとだんだん視力が回復し、何もかも、はっきり見えるようになりました。

26 イエスは、男を家族のもとへお帰しになり、「村へは行かないように」と注意されました。

イエスこそ救い主

27 イエスの一行はガリラヤを去り、ピリポ・カイザリヤの村々へ行きました。道々、イエスは弟子たちに、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになり

ました。

28 「バプテスマのヨハネだと言う者もいれば、エリヤだと言う者もいます。 また昔の預言者が生き返ったと言う者もいます」と、弟子たちは答えました。

29 するとイエスは、「では、あなたがたは、だれだと思っているのですか」とお尋ねになりました。 即座に、ペテロが、「あなた様こそキリスト（救い主）です」と答えました。

30ところが、イエスは、このことをだれにも話してはいけないと、きびしく言われました。

31 それから、やがて自分が経験する恐ろしい出来事——長老、祭司長、ユダヤ人の指導者たちに捨てられ、殺され、三日目に復活することを、弟子たちに話し始めました。 32それも、実にはっきりとお話しになったので、ペテロはイエスをわきに呼び、「そんなことをおっしゃるものではありません」と忠告しました。

33 イエスは、ふり返って弟子たちを見回すと、非常にきびしい口調でペテロに言われました。「下がれ、サタン！ あなたはただ人間的な見方をして、神の立場からは考えてみようともしていないのです。」

34 それから、弟子たちと群衆とを呼び寄せ、こう言われました。「だれでもわたしについて来なければ、自己中心の生活をやめ、自分の十字架を背負って、ついて来なさい。

35いのちを守ることにばかり、あくせくしていたら、かえってそれを失います。 わたしと、この神のすばらしい知らせとのためにいのちを投げ出す者だけが、生きることの意味をほんとうに知るのです。

36 たとい全世界を自分のものにしても、いのちを失ったら、何の得があるでしょう。

37いのちを買い戻すどんな手だてがあるというのでしょうか。 38だれでも、この不信仰と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばとを恥じる者をメシヤ（救い主）のわたしも、やがて父の栄光を帯びて聖なる御使いと共に帰って来る時、恥じるのです。」

九

栄光に輝くイエス

1 イエスはさらに、ことばを続けました。「ここに立っている人人の中には、神の国が大きな力を持って来るのを見るまで、生きている人がいます。」

2 それから六日後、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、山に登られました。突然、イエスの顔が栄光に輝き、 3着物はまばゆいばかりの白さになりました。 世のどんな布さらし屋も、こんなに白くはできないと思われるほどの白さでした。 4そこへ、なんとエリヤとモーセが現われ、イエスと親しく話し始めたではありませんか。

5 これを見たペテロは、思わず叫びました。「先生。 なんとすばらしいことでしょう！ ここに、お一人に一つずつ、三つの小屋を建てましょう。」

6 こう言う以外に、何と言ったらよいかわからなかったのです。 弟子たちはみな、おびえ切っていました。

7 ペテロがまだ言い終わらないうちに、雲がすっぽり彼らを包み、太陽をさえぎったか

と思うと、雲の中から、「これはわたしの愛する子。 この人の言うことを聞きなさい」という声がしました。

8 あっけにとられた弟子たちがあたりを見回すと、すでにモーセとエリヤの姿は見えません。 ただイエスがおられるだけでした。

9 山を降りながら、イエスは弟子たちに、いま見たことを、自分が死人の中から復活する時まで、だれにも口外しないようにとお命じになりました。 10 三人はそのことを深く心に秘めておきましたが、「死人の中から復活する」とはどういう意味かわからず、あれこれ話し合いました。

11 そこで彼らは、「どうしてユダヤ人の宗教的指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、必ずエリヤが来るはずだ、と言っているのでしょうか」と尋ねました。 12 13 イエスは、「まずエリヤが来て道を整えるというのはほんとうです。 実際、エリヤはもう来たのです」とお答えになりました。 そして、エリヤは預言どおり、人々からひどい仕打ちを受けたのですと説明されてから、「では、メシヤが、さんざん苦しめられ、ひどく軽べつされるという預言はどういうことでしょうか」とお尋ねになりました。

山を降りたイエス

14 四人が弟子たちのところに帰ってみると、大ぜいの群衆に囲まれて、弟子たちと数人のユダヤ人の指導者たちが論争のまっ最中でした。 15 人々は、イエスの姿を見て驚き、すぐに駆け寄り、あいさつしました。 16 「何を議論しているのですか」と、イエスはお尋ねになりました。

17 すると一人の男が、こう答えました。 「先生。 あなた様に息子を治していただくのと連れてまいりました。 息子は悪霊に取りつかれていて、ものを言うことができません。 18 この悪霊が取りつくのと、どこであろうと、あたりかまわず押し倒すので、息子は口からあわを吹き、歯ざしりして、体を硬直させてしまいます。 お弟子さんたちに、何とか悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」

19 「ああ、なんと信仰の薄い人たちでしょう。 いつまで、あなたがたといっしょにいないかならないことでしょうか。 さあ、その子を連れて来なさい。」

20 さっそく少年が連れて来られました。 ところが、イエスを見るなり、悪霊が彼をひどくひきつけさせたので、ばったり倒れ、あわを吹きながら、のたうち回りました。

21 イエスは父親にお尋ねになりました。 「いつからこのようになったのですか。」 「それが、小さい時分からで。 22 悪霊は、この子を殺そうと、何度も火の中、水の中に倒したんで……。 先生、お願いします。 もしおできになるなら、何とか、何とかしてください！」

23 「もしできるなら、と言うのですか。 あなたが信じるなら、どんなことでもできるのです。」

24 「信じます、信じますとも！ ああ、どうか不信仰な私をお助けください。」

25 人だかりが、だんだんひどくなるのを見て、イエスは悪霊をしっかりとつけました。「聞

くことも言うこともできなくさせる霊よ。 さあ、この子から出て行きなさい！ 二度と戻って来てはいけない！」

26 すると悪霊は大声をあげ、もう一度少年を激しくひきつけさせて出て行きました。少年はぐったりとなり、まるで死んだように動きません。 人々はざわつき始めました。

「おい、死んでしまったぞ」というささやきも聞こえます。 27ところが、イエスが少年の手を取って起こされると、彼はぱっと立ち上がり、すっかり元気になりました。 28あとで、家に入り、ほかにはだれもいなかった時、弟子たちはイエスに尋ねました。「どうして私たちには、あの悪霊を追い出せなかったのでしょうか。」

29 イエスは、「こういうことには、特に祈りが必要なのです」とお答えになりました。

30 一行はそこを去り、ガリラヤを通って行きました。 イエスは、できるだけ人目につかないように心を配っておられました。 31なるべく多くの時間をさいて、弟子たちと語り合い、教育するおつもりだったからです。「メシヤ（救い主）のわたしは裏切られ、殺され、そして三日目に復活します」と、イエスは教えられました。

32 しかし弟子たちには何のことやら、さっぱりわかりません。 かといって、イエスに直接その意味を尋ねるのも、なんだかこわかったのです。

33 カペナウムに着き、泊まることになっていた家に入ってしばらくすると、イエスが弟子たちに、「ここへ来る途中、何を言い合っていたのですか」とお尋ねになりました。

34 弟子たちは顔を真っ赤にして、うつむいてしまいました。 実は、だれが一番偉いかと言い合っていたからです。

35 イエスは腰をおろし、弟子たちを回りに呼び寄せると、「だれでも一番偉くなりたい人は、一番小さい者となり、だれにでも仕える者となりなさい」と教えられました。 36それから、小さな子供を真ん中に立たせ、腕に抱いて言われました。 37「見なさい。だれでもわたしの名のゆえに、このような小さい者をも受け入れる人は、わたしを受け入れているのです。 そしてわたしを受け入れる人は、わたしを遣わされたわたしの父をも受け入れているのです」

38 ある時、弟子のヨハネがイエスに言いました。「先生。 あなた様のお名前を使って悪霊を追い出している人を見かけましたよ。 でも、私たちの仲間じゃなかったので、即刻やめさせました。」

39 するとイエスは言われました。「やめさせることはありません。わたしの名によって奇蹟を行ないながら、そのすぐあとで、わたしに逆らう者はいないのでから。 40わたしたちに反対しない者は、味方なのです。 41あなたがたがキリストの弟子だと知って、水一杯でも飲ませてくれる人は、よく言っておきますが、必ずごほうびをもらいます。

42だが反対に、これら小さい者の一人にでも信仰を失わせるような者は、大きな石を首にくくりつけられて、海中に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。

4344もし手が悪いことをするなら、切り取ってしまいなさい。 片手になっても永遠

に生きるほうが、両手そろって、いつまでも燃え続ける地獄の火に投げ込まれるよりは、ずっとよいのです。 4546 もし足があなたを悪事に引きずり込むなら、切り取ってしまいなさい。 片足になっても永遠に生きるほうが、両足そろって、地獄に落ちるよりは、ずっとよいのです。

47 もし目が罪を犯すなら、えぐり出してしまいなさい。 片目ででも神の国に入るほうが、両眼そろって地獄の火を見るより、はるかによいのです。 48 地獄では、彼らを食ううじはいつまでも死なず、燃えさかる火は消えることはありません。 49 すべてのものは、火のような試練で塩けをつけられるのです。

50 良い塩も、塩けをなくしたら、だいなしです。 味つけの役に立たなくなっています。 だからあなたがたも、塩けをなくさないように、よく注意しなさい。 そして、互いに仲むつまじく暮らしなさい。」

一〇

神様からのすばらしい報い

1 イエスはカペナウムをあとにし、ユダヤ地方とヨルダン東岸へ行かれました。 またもや群衆が集まったので、イエスは彼らに教えておられました。

2 そこへ何人かのパリサイ人たちが来て、イエスに、「あなたは、離婚をお認めになりますか」と尋ねました。 もちろん、これはわなでした。

3 「モーセは、離婚について何と言いましたか。」反対に、イエスがお尋ねになりました。

4 「離婚してもさしつかえないと言いました。 ただその時は、男が女に離縁状を書く決まりですが。」

5 「なぜモーセはそう言ったのか、考えてみなさい。 あなたがたの心が邪悪で強情だったから、しかたなく認めたのです。 67 離婚は神の意志に反します。 神は、そもその初めから、人を男と女とに造られたのです。 ですから、人は両親から離れて、 8 妻と一体となるのです。 もはや二人ではなく、一人なのです。 9 神が一つにしてくださいましたものを、だれも引き離してはなりません。」

10 イエスが家に戻られると、弟子たちはまた、この問題を持ち出しました。

11 イエスは言われました。 「ほかの女と結婚したいばかりに妻を離縁するなら、妻に対して姦通罪を犯すのです。 12 また夫と離婚して別の男と再婚する女も同様です。」

13 さて、イエスに祝福していただこうと、人々が、子供たちを連れてやって来ました。 ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、彼らを追い返そうとしました。

14 それをごらんになったイエスは、憤って弟子たちをおしかりになりました。 「子供たちを、自由に来させなさい。 神の国はこの子供たちのような者の国なのです。 追い払うなど、とんでもありません。 15 いいですか。 よく言っておきますが、小さな子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

16 それから、子供たちを抱き上げ、頭に手を置いて、祝福されました。

17 イエスが道に出て行くと、一人の人が走り寄って、ひざまずき、「先生。 あなた様

は尊いお方です。 お教えてください。 天国に入るには、どうしたらよいでしょうか」と尋ねました。

18 「どうしてわたしを尊いと言うのですか。 尊いお方は神お一人です。 19 まあ、それはさておき、今の質問に答えましょう。 守るべき戒めは知っていますね。 そう、殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、だまし取ってはならない、あなたの父と母とを敬いなさい、という戒めです。」

20 「はい、先生。 私は今まで、これらの戒めを一つも破ったことはありません。」

21 イエスは心から彼に同情して言われました。 「あなたには、たった一つだけ欠けたところがあるのです。 さあ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてやりなさい。 そうすれば、天に宝をたくわえることになるのです。 それから、わたしについて来なさい。」

22 このイエスのことばに、その人は顔をくもらせ、悲しそうに、すごすごと帰って行きました。 たいへんな金持ちだったからです。

23 そのうしろ姿をじっと見ておられたイエスは、弟子たちのほうをふり返られ、「金持ちが神の国に入るのは、実にむずかしいことです」と言われました。

24 これには、弟子たちもびっくりしてしまいました。 イエスは、もう一度言われました。 「愛する子供たちよ。 財産を頼みとする人が神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。 25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」

26 弟子たちはますます驚いて言いました。 「そうだとしたら、この世の中で、いったいだれが救われるのでしょうか。」

27 イエスは弟子たちをじっと見つめ、「神でなければできません。 神には、どんなことでもできるのです」と言われました。

28 するとペテロが、自分や他の弟子たちが捨ててきたものをいちいち数え始めました。 「私たちは何もかも捨てて、あなた様に従ってまいりました。」

29 30 これを聞いて、イエスは言われました。 「はっきり言っておきます。 わたしを愛するゆえに、また神のすばらしい知らせを人々に告げ知らせるために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、財産をすべて投げ捨てた者は、必ずその百倍の報いを受けます。 この地上では迫害されますが、それでも家、兄弟、姉妹、母、子、土地はちゃんと戻ってきます。 そればかりか、次の世では永遠のいのちを受けるのです。 31 今は一番偉そうに見える者が、その時には一番軽んじられ、今は小さい者と見くびられていても、その時には一番大きい者となる者が大ぜいいるのです。」

イエス、ご自分の死と復活を予告する

32 さて一行は、エルサレムを目指して進んで行きました。 イエスが先頭で、弟子たちはあとから続きます。 彼らは恐れと不安な気持ちにかられていました。 そこでイエスは、弟子たちをわきへ呼び、エルサレムに到着してから自分の身に起こることを、もう

一度、話して聞かせられました。

33 「エルサレムに着くと、メシヤ（救い主）のわたしは捕らえられ、祭司長やユダヤ人の指導者たちに引き渡され、死刑を宣告されます。そして死刑執行のためにローマの役人の手に渡され、34 あざけられ、つばきをかけられ、むちで打たれ、殺されます。だが、わたしは三日目に復活するのです。」

35 さて、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネが来て、イエスにこっそりと頼みました。「先生。 折り入ってお願いしたいことがあるのですが……。」

36 「どんなことですか。」

37 「実は、あなた様の御国で、私たちをあなた様の次に高い位につかせていただきたいのです。 一人はあなた様の右に、一人は左にというぐあいに。」

38 しかし、イエスは言われました。「あなたがたは、何もわかっていませんね。 わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲み、わたしが受けようとしている苦しさのバプテスマ（洗礼）を受けることができるとでも言うのですか。」

39 「できますとも！」と、自信をもって答える二人に、イエスは、「確かにあなたがたはわたしの杯を飲み、バプテスマを受けるでしょう。 40 だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしが決めることはありません。 もうすでに、決まっています」とおっしゃいました。

41 この、ヤコブとヨハネの願い事を知ったほかの弟子たちは、もうれつに腹を立てました。 42 それでイエスは、皆を呼び集められ、こう言われました。「あなたがたも知っているとおおり、この世の王や高官は、支配者として権力をほしいままにしています。

43 しかし、あなたがたの間では違います。 偉くなりたければ、皆に仕える者となりなさい。 44 人を支配したければ、奴隷のように仕える者となりなさい。 45 メシヤのわたしでさえ、人に仕えられるためではなく、仕えるために来たのであり、多くの人の罪の代償として、自分のいのちを与えるために来たのです。」

46 一行はエリコに着きました。 やがてその町を出ようとすると、大ぜいの群衆がついて来ます。 その時、テマイの子でバルテマイという名の盲目のこじきが、道ばたに座っていました。

47 ナザレのイエスのお通りだと聞いて、バルテマイは大声を張り上げました。「イエス様、ダビデ王の子よ！ どうぞお助けを！」

48 「うるさい。 黙れっ！」と、だれかがどなりつけました。 それでも、バルテマイはますます声を張り上げ、「ああ、ダビデ王の子よ。 お助けください」とくり返し叫びました。

49 その声を聞きつけて、イエスはつと立ち止まり、「あの男を連れて来なさい」と言われました。 そこで、人々はその盲人に、「運のいいやつだ。 おい、イエス様がお呼びだぞ」と告げました。 50 バルテマイは、はおっていた上着をぱっと脱ぎ捨てると、喜び勇んでイエスのそばに跳んで来ました。

5 1 「どうしてほしいのですか」と、イエスがお尋ねになると、彼はもどかしげに、「先生。見えるように、見えるようになりたいんです」と答えました。

5 2 「わかりました。さあ、もうあなたの目は治りました。あなたの信仰があなたを治したのです。」イエスがこう言われた瞬間、彼の目は見えるようになり、イエスについて行きました。

――

エルサレムに着いてから

1 2 エルサレム郊外のオリーブ山のふもとに、ベテパゲとベタニヤという二つの村がありました。その近くまで来られた時、イエスはこう言って、弟子を二人、村へ使いに出されました。「あそこの村に行きなさい。するとすぐに、だれも乗ったことのないろばの子が見つないであるのに気づくでしょう。それをほどこいて、連れて来なさい。3 もしだれかに何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです。すぐお返します』とだけ答えなさい。」

4 5 二人が出かけてみると、なるほど、表通りに面した家の外に、ろばの子が見つないであります。さっそく綱をほどこにかかると、そばにいた人たちが見とがめて、「そのろばの子を、いったいどうしようというんだい」と尋ねました。

6 二人が、イエスに教えられたとおりに答えと、その人たちは納得しました。

7 ろばの子をイエスのところに連れて来た弟子たちは、上着を脱ぎ、ろばの背中にかけました。イエスがその上に乗られると、8 群衆の中の多くの者たちも次々と上着を脱ぎ、イエスの進んで行かれる道に敷いたり、野原から葉のついた枝を切ってきて、敷き並べたりしました。

9 1 0 イエスを行列の真ん中にし、ぐると取り囲んだ群衆が、口々にこう叫びました。

「王様、ばんざーいっ！」

「主の御名によって来られる方に祝福を！」

「この方が興される御国に、われらの父祖ダビデの国に祝福を！」

「全世界の王、ばんざーいっ！」

1 1 こうして、イエスはエルサレムに着き、宮に入られました。そして中の様子をよくごらんになってから、もう時間も遅かったので、十二人の弟子たちといっしょに、ベタニヤまで引き返されました。

1 2 翌朝、ベタニヤを出たイエスは、途中で空腹になりました。1 3 ふと見ると、少し離れた所に、葉の茂ったいちじくの木があります。近づいて、実がなっているかどうかごらんになりました。ところが、その木は葉ばかりでした。まだ実のなる季節ではなかったからです。

1 4 それでイエスは、その木に向かって、「二度と実をつけることがないように」と言われました。弟子たちはこのことばを心にとめていました。

1 5 エルサレムに戻ると、イエスは宮に入り、境内で商売をしていた者たちを追い出し

にかかれ、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返されました。 16
また、いろいろな荷物を持って境内を通り抜けることも、お許しになりませんでした。

17 そういう人たちに、イエスは、このように言われました。「聖書（旧約）には、『わたしの神殿は、世界中の人たちの祈りの場所と呼ばれる』と書いてあるではありませんか。 それなのに、あなたがたはここを強盗の巣にしてしまったのです。」

18 こうしたイエスの言動を耳にした祭司長やユダヤ人の指導者たちは、どうすれば首尾よくイエスを始末できるかと、相談を始めました。人々がみなイエスの教えに夢中になっていたのも、へたに動いて暴動でも起きたら、それこそ一大事と考えたからです。

19 その夕方、いつものようにイエスと弟子たちはエルサレムを出ました。 20 翌朝、例のいちじくの木の下を歩きかかると、なんと根もとまですっかり枯れているではありませんか！ 21 ペテロはすぐ、前の日にイエスがこの木に向かって言われたことばを思い出し、大声をあげました。「先生。 ごらんください。 昨日あなた様がのろわれた木が枯れています！」

22 23 イエスは、弟子たちにお答えになりました。「よく言うておくが、あなたがたでも神を信じさえすれば、このオリーブ山に『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。 大切なのは、信じて疑わないことです。 24 いいですか。 よく聞きなさい。 あなたがたはどんなことでも祈り求めることができます。 そして信じて疑わないなら、それらのものはみな与えられるのです。 すでにあなたがたのものなのです。 25 だが、祈っている時、だれかに恨みをいだいていたら、まずその人を赦してやりなさい。 そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいませ。」

26 - 28 一行は、またエルサレムにやって来ました。 イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長やユダヤ人の指導者たちが近づいて、「ここで何をしているのか。 いったいだれが、あんたに商人たちを追い出す権利を与えたのか」と食ってかかりました。

29 イエスはお答えになりました。「では、まずわたしの質問に答えなさい。 そのあとで答えましょう。 30 バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。 それとも、違うというのですか。 さあ、答えてもらいましょう。」

31 彼らは集まってひそひそ相談しました。「もし、『神様から遣わされた』と答えれば、『それを知っていながら、なぜ、ヨハネを信じなかったのか』と聞かれるだろう。 32 かといって、もし、『神様から遣わされたのではない』と答えれば、ここにいる群衆が騒ぎ出すだろう。」〔人々はみな、ヨハネは預言者だと堅く信じていたのです。〕

33 彼らはしかたなく、「わかりません」と答えました。 するとイエスは、「それなら、わたしもあなたがたの質問には答えないことにします」と言われました。

・

一二

ぶどう園のたとえ話

1 それからイエスは、たとえを使って人々に話し始められました。

「ある農園主がぶどう園を造り、垣根を巡らし、ぶどうの汁をしぼる穴を掘り、見張りのやぐらを建てました。そして、このぶどう園を農夫たちに貸し、外国へ出かけました。

2 ぶどうの収穫の季節になったので、農園主は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。3 けれども農夫たちは、代理の者を袋だたきにしたあげく、手ぶらで送り帰したのです。

4 そこで、もう一人の代理人を送りましたが、彼も同じような仕打ちを受け、しかも頭にひどいけがを負いました。5 農園主はまた別の人を送りました。こともあろうに、農夫たちはその人を殺してしまいました。そのあとも次々に人が送られましたが、みな袋だたきにされたり、殺されたりして、6 残るは、農園主の息子だけになりました。愛するたった一人の息子でした。しかし農園主は『息子だったら、農夫たちも尊敬してくれるだろう』と思い、ついにその息子を送り出しました。

7 ところが、農夫たちは息子を見ると、『おい、絶好のチャンスだぜ。ぶどう園の跡取りがやって来らあ。よーし、あいつを殺っちまおうぜ。そうすりゃあ、ここはおれたちのものよ』とばかり、8 いっせいに息子を捕らえて殺し、死体をぶどう園の外に放り出しました。

9 農園主がこのことを知ったら、どうすると思いますか。すぐさま帰って来て、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すでしょう。10 あなたがたは、聖書（旧約）にこう書いてあるのを読んだことがないのですか。

『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石となった。

11 なんとすばらしいことか。

主はなんと驚くべきことをなさる方か。』

敵のわなを見破る

12 このたとえ話を聞いた祭司長やユダヤ人の指導者たちは、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、イエスを捕らえようと思いましたが、群衆の暴動がこわくて手出しができません。しかたなく、イエスをそのままにして、そそくさと立ち去りました。13 それでも、何とかして逮捕の口実をつかもうと、パリサイ人やヘロデ党（ヘロデ王を支持する政治的な一派）の者たちを送りました。

14 彼らはイエスに尋ねました。「先生。あなた様のおっしゃることは、いちいちごもつともでございます。そうですとも、あなた様は、私利私欲にとらわれず、まじめに神の道を教えておられます。つきましては……、ちょっとお尋ねしたいのですが、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。それとも……。」

15 彼らのわなを見破ったイエスは、「教えてあげるから、銀貨を見せなさい」と言われました。

16 そして銀貨を受け取ると、こうお尋ねになりました。

「この銀貨に刻んである肖像と名前はだれのものですか。」

「ローマ皇帝のものです。」

17 「その通りです。 皇帝のものなら、皇帝に返しなさい。 しかし、神のものはすべて、神に返さなければなりません。」こう言われて、彼らは頭をかかえ込んでしまいました。

18 次に、復活などありえないと主張していたサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）がやって来ました。

19 「先生。 モーセの法律によると、ある男が結婚して子供がないまま死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっています。 20 - 22 ところで、ここに七人兄弟がいたとしましょう。 長男は結婚しましたが、子供がないまま死に、残された未亡人は次男の妻になりました。 ところが次男も子供ができずに死んだので、その妻は三男のものになりました。 三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。 最後にこの未亡人も死にました。

23 そこでお尋ねしたいのですが……、復活の時、この女はいったいだれの妻になるのでしょうか。 七人とも彼女を妻にしたのですが。」

24 イエスはお答えになりました。「聖書も神の力もわかっていないようですね。 全く思い違いをしています。 25 復活の時には、結婚などはないのです。 みんなが天の使いのようになるのですから。

26 ところで、復活のあるなしについては、聖書の、モーセと燃える柴の箇所を読んだことがないのですか。 神はモーセに、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われました。

27 実際には、これらの人たちは数百年も前に死んでいたのに、神はモーセに、彼らはなお生きていと教えられたのです。 そうでなければ、すでに存在していない人の『神である』などと、おっしゃるはずがありません。 あなたがたは、この点で決定的なまちがいを犯しています。」

28 イエスのそばで、この見事な返答ぶりを聞いていた一人のユダヤ教の教師が、「先生。 すべての戒めの中で、どれが一番重要な戒めでしょうか」と尋ねました。

29 「『イスラエルよ、聞け！ 主なる神こそ、ただ一人の神です。 30 心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの主を愛しなさい。』これが最も重要な戒めです。

31 第二は、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。 これ以上に重要な戒めはありません。」

32 「先生。 あなた様は今、神様はお一人で、ほかに神はいないとおっしゃいましたが、まさにそのとおりです。 33 そして、神殿の祭壇にどんな供え物をささげるよりも、『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人を自分と同じように愛す

る』ことのほうが、ずっと大切です。」

34 この賢明な答えに感心したイエスは、「あなたは神の国から遠くない」と言われました。そのあとはもう、だれも、あえてイエスに質問しようとはしませんでした。

35 その後、神殿の境内で教えておられた時、イエスはこうお尋ねになりました。「ユダヤ教の教師たちは、どうしてキリストがダビデ王の子だと言いはるのですか。 36 ダビデ自身が、といっても、ほんとうは聖霊がダビデを通して語られたのですが、こう言っているではありませんか。

『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を
あなたの足台とするまで、
わたしの右に座っていなさい。』

37 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子でありうるのでしょうか。」こういう議論に群衆は大喜びです。好奇のまなざしで、わくわくしながらイエスの話に聞き入っていました。

38 イエスは、ほかにも次のような話をなさいました。

「ユダヤ教の教師たちを警戒しなさい。 彼らは見るからに学者らしいぜいたくなガウンをはおったり、広場を歩いている時に、大ぜいの人からあいさつされたりするのが、何よりうれしいのです。 39 また会堂で特別席に座ったり、宴会で上座に着いたりするのも大好きです。 40 裏では、恥知らずにも、未亡人の家を食いものにしながら、人前では長ったらしい祈りをして、これ見よがしに神を敬うふりをしています。 こういう人たちは、人一倍きびしい罰を受けるのです。」

41 それから、神殿の献金箱のそばに座り、人々がお金を投げ入れる様子をじっと見ておられました。 大ぜいの金持ちが、気前よく大金をささげているところへ、 42 みすばらしいなり未亡人がやって来て、そっと十円玉を二つ投げ入れました。

43 44 それをごらんになったイエスは、弟子たちを呼び寄せられ、こう言われました。「あの貧しい未亡人は、どの金持ちよりも、はるかに多く投げ入れたのですよ。 金持ちたちはあり余る中からほんの少しばかりささげたのに、この女は、乏しい中から持っている全部をささげたのですから。」

一三

この世の終わり

1 イエスが宮から出ようとしておられた時、弟子の一人が言いました。「先生。 まあ、なんと美しい建物でしょう。 なんと見事な石でしょう。」

2 すると、イエスはお答えになりました。「なるほどすばらしいものです。 だが、この建物も、たった一つの石さえほかの石の上に残らないほど、あとかたもなくくずれ落ちてしまうのです。」

3 4 イエスがオリーブ山で、宮のほうを向いて座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハ

ネ、アンデレがひそかにイエスに尋ねました。「いったいいつ、神殿にそんなことが起こるのですか。　そうなる前に、何か前兆でもあるのでしょうか。」

5　そこで、イエスはゆっくり話し始められました。　「だれにもだまされてはいけません。　6自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすからです。　7また、あちこちで戦争が始まるでしょう。　けれども、まだ終わりが来たわけではありません。

8　民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所で地震やききんが起きます。しかしこれらはみな、やがて襲って来る苦しみ、ほんの始まりにすぎないのです。　9しかし、これらのことが起こり始めたら、よく警戒しなさい。　非常な危険が迫っているからです。　あなたがたは法廷に引き出され、会堂でむち打ちの刑を受け、またわたしに従う者だというだけで、総督や王たちの前で訴えられるでしょう。　しかしその時こそ、神のすばらしい知らせを語るチャンスです。　10終わりの時が来る前に、この知らせは世界中の人々に伝えられなければなりません。　11逮捕されても、取り調べの時、どう釈明しようかと心配することはいりません。　ただ、その時、神があなたがたに語ってくださることだけを話せばいいのです。　話をするのはあなたがたではなく、聖霊なのです。

12　兄弟同士が裏切り合い殺し合うかと思えば、親までが子を裏切り、子もまた親に反逆し、殺します。　13そしてあなたがたは、わたしの弟子であるというだけで、すべての人に憎まれます。　しかし終わりまで、わたしへの信仰を捨てずに耐え忍ぶ者は、みな救われます。

14　恐るべきものが神殿に立つのを見たら〔読者よ、よく考えなさい〕、ユダヤにいる人たちは、山へ逃げなさい。　1516急ぐのです。もしその時、屋上にいたら、家の中に戻ってはいけません。　畑で野良仕事をしていたら、お金や着物を取りに帰ってはいけません。

17　このような日に妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。　18あなたがたの逃げるのが、冬にならないように祈りなさい。　19それは、神が天地を創造された初めから今に至るまで、いまだかつてなかったような恐るべき日からです。　20主が、このわざわいの期間を短くしてくださらないかぎり、地上には、一人も生き残れないでしょう。　だが、神に選ばれた人たちのために、その期間は短くされるのです。

21　その時、だれかが『この方がキリスト様だ』とか『いや、あの方がそうだ』とか言っても、気をとられてはいけません。　22偽キリストや偽預言者が次々に現われて、不思議な奇蹟を行ない、できることなら神に選ばれた者たちをさえ惑わそうとするからです。　23気をつけていなさい。　警告しておきますよ。

24　この苦難の時に続いて、太陽は暗くなり、月は光を失い、　25星は落ち、宇宙に異変が起こります。

26　その時すべての人が、メシヤ（救い主）のわたしが大きな力と栄光とを帯びて、雲

に乗って来るのを見るでしょう。 27 わたしは御使いたちを遣わし、世界中から、天と地の果てから、選ばれた者たちを呼び集めるのです。

28 さて、いちじくの木から教訓を学びなさい。 いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。 29 同じように、いま言ったようなことが起これば、わたしはもう戸口まで来ているのです。

30 そうです。 これが、この時代の終わりの前兆なのです。 31 天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。

32 しかし、だれも、天の使いも、わたし自身でさえも、その日、その時がいつかは知りません。 ただ父だけが知っておられます。 33 だから、いつ終わりが来ても困らないように、〔わたしの帰りを〕目を覚まして待っていなさい。

34 こう言えば、もっとはつきりするでしょう。 ある人が外国旅行に出かける時、使用人たちに留守中の仕事の手配をし、門番には、主人の帰りを見張っているようにと命じて出かけました。 35 だから、しっかり目を覚ましていなさい。 いつわたしが帰ってくるか、夕方か、夜中か、明け方か、それともすっかり明るくなってからか、わからないのですから。 36 不意をつかれて、居眠りしているところを、見られないようにしなさい。 37 あなたがただけでなく、すべての人にも、念を押しておきます。 わたしの帰りを、抜かりなく見張っていなさい。」

一四

裏切られたイエス

1 過越の祭り〔イースト菌を入れないパンを食べる、年に一度のユダヤ人の祭り〕が二日後に迫りました。 いぜんとして、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、イエスを捕らえて死刑にしようと、うの目たかの目で機会をうかがっています。

2 しかし、「祭りの間はまずいぞ。 群衆が暴動でも起こすと取り返しがつかないからな」と用心していました。

3 さて、イエスは、ベタニヤのらい病人シモンの家におられました。 ちょうど食卓に着いておられる時、女が一人、入って来ました。 高価な香油の入った美しいつぼを持っています。 女はイエスに近づくと、いきなりつぼの封を切り、香油をイエスの頭に注ぎかけました。

4 5 同席していた何人かの者たちは腹を立て、「なんてもったいないことをする女だ。 この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに恵むこともできたのに」と女をとがめました。

6 しかしイエスは、彼らに言われました。 「するままだせておきなさい。 良いことをしてくれたのに、なぜ非難するのですか。 7 貧しい人たちは、いつも身近にいるから、その気があれば、いつでも助けることができます。 しかし、わたしはもう、そんなに長くこの地上にいないのです。

8 この女は、精一杯のことをしてくれました。 わたしの葬りの準備に、香油を塗ってくれたのですから。 9 よく言っておきます。 世界中どこでも、神のすばらしい知ら

せが伝えられる所では、この女のしたことも必ず賞賛されるでしょう。」

10 ところで、弟子の一人、イスカリオテのユダは、イエスを売り渡そうと、わざわざ祭司長たちのところに出かけました。

11 ユダが来意を告げると、祭司長たちは有頂天になり、「謝礼ははずんでやるぞ」と約束しました。それ以来、ユダは、イエスを売り渡すチャンスをねらうようになりました。

12 過越の祭りの最初の日、すなわち、小羊をいけにえとしてささげる日に、弟子たちは「どこで過越の食事をなさるおつもりですか」と尋ねました。13そこでイエスは弟子を二人エルサレムへやり、その準備をさせることにしました。「町を歩いて行くと、水がめを持って来る男に出会うから、その男について行きなさい。14彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、過越の食事をする部屋を見て来るようにと申しました』と言いなさい。15主人はすっかり用意の整った二階の広間を見せてくれるはずです。そこで食事のしたくをしなさい。」

16 二人が町に入って行くと、何もかもイエスの言われたとおりでした。こうして、過越の準備は整いました。

17 夕方、イエスと弟子たちは連れ立って、そこにやって来ました。18皆が食卓を囲んで食事をしていると、イエスは言われました。「いいですか。よく覚えておきます。今わたしといっしょに食事をしている者の一人が、わたしを裏切るのです。」

19 これを聞いた弟子たちは、ひどく心を痛め、口々に、「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。

20 「あなたがた十二人の中の一人で、今わたしといっしょに、同じ鉢にパンを浸している者が、裏切り者です。21預言者が、ずっと昔からはっきり預言してきたように、わたしは死ななければなりません。だが、わたしを裏切る者はのろわれます。その人はむしろ生まれてこなかったほうがよかったのです。」

22 食事の最中に、イエスはパンを取り、神様の祝福を祈ってから、それをちぎり、弟子たちに分け与えられました。「食べなさい。これはわたしの体です。」

23 それからぶどう酒の杯を取り、神様に感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えられました。弟子たちはみな、その杯から飲みました。

24 イエスは言われました。「これは多くの人のために流す、わたしの血です。神と人間との新しい契約を保証する血です。25よく覚えておきますが、やがて神の国で、もっとすばらしいものを飲むその日まで、わたしは、もう決してぶどう酒を飲みません。」

26 一同は賛美歌をうたってから、オリーブ山に向かいました。

27 イエスは、弟子たちに言われました。「あなたがたはみな、わたしを見捨てるでしょう。神が預言者を通して、『わたしが羊飼いを打つ。すると羊は散り散りになる』と言われたとおりに。28だが、わたしは復活して、ガリラヤに行きます。そこであなたがたに会うでしょう。」

29 「だれがどうあろうと、私だけは、この私だけは絶対にあなた様を捨てません」と

叫ぶペテロに、 30 イエスは、「ペテロよ。 あなたは明日の朝、鶏が二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われました。

31 「とんでもない！ たとい死んでも、絶対にあなた様を知らないなどとは申しません。」ペテロは大声で言い返しました。ほかの弟子たちも、口々に誓い始めました。

32 さて、一同は、オリーブの木の茂っている、ゲツセマネと呼ばれる園にやって来ました。「わたしが向こうで祈っている間、ここに座っていなさい。」

33 こうお命じになると、イエスは、ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、奥のほうに行かれました。その時、恐れと絶望に襲われて、イエスはもだえ始められました。 34

「わたしは悲しみのあまり、今にも死にそうです。 お願いだから、ここを離れず、わたしといっしょに目を覚ましていなさい。」

35 こう頼むと、三人から少し離れた所へ行き、地面にひれ伏して、もしできることなら、自分を待ちかまえている恐ろしい時が来ないようにと、切に祈られました。

36 「父よ、父よ。 あなたはどんなことでもおできになります。 どうぞ、この杯を取り除いてください。 しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」

37 イエスが弟子たちのところへ戻って来られると、三人が三人とも、ぐっすり眠り込んでいるではありませんか。そこで、ペテロに声をかけました。「シモンよ。眠っているのですか。 たったの一時間でも、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。 38 しっかり目を覚まして祈っていなさい。 さもないと誘惑に負けてしまいます。 心は燃えていても、肉体は弱いのですから。」

39 こうしてまた、彼らから離れ、前と同じことを祈られました。 40 そのあと、もう一度弟子たちのところへ戻って来ると、またもや、三人とも眠り込んでいます。 ひどく眠気がさして我慢できなかったからです。 彼らは何と言いわけしたらよいか、わかりませんでした。

41 イエスは三度目に戻って来て言われました。「まだ眠っているのですか。 それだけ眠れば十分でしょう。 さあ、時が来ました。 いよいよ、わたしは悪い者たちの手に売り渡されるのです。 42 さあ、立ちなさい。 行くのです。 見なさい、裏切り者がやってきました。」

43 イエスがまだ言い終わらないうちに、祭司長やユダヤ人の指導者たちの差し向けた暴徒たちが、手に手に剣やこん棒を振りかざし、弟子の一人であるユダを先頭に近づいて来ました。

44 ユダは前もって、「いいか。 私があいさつをする相手がイエスだから、そいつをつかまえて、引っ立てて行くのだ」と打ち合わせておきました。 45 それで、やって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と声をかけ、さも親しげに抱きしめました。 46 そのとたん、暴徒たちがいっせいにイエスを取り押さえました。 47 その時、イエスのそばにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下に切りかかり、相手の耳を切り落と

してしまいました。

48 イエスは暴徒たちに向かって言われました。「剣やこん棒で、これほどものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪な犯罪者なのですか！ 49 なぜ、神殿で捕らえようとしなかったのですか。 わたしはあそこで毎日教えていたのに。 いいですか、これもみな、わたしについての預言が実現するためなのです。」

50 この時にはもう、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。 51

52 ただ一人、亜麻布を一枚だけまとして、イエスのうしろからついて行く青年がいました。ところが、途中で暴徒たちに見つかり、危うく、つかまりそうになったので、引きちぎられた亜麻布を脱ぎ捨て、裸のまま、ほうほうのていで逃げて行きました。

ペテロ、イエスを知らないと言う

53 イエスは、大祭司の家に引っ立てられて行きました。 祭司長やユダヤ人の指導者たちも、急いで駆けつけ、まもなく全員がそろいました。 54 さてペテロは、遠くからあとをつけて行き、うまく門からもぐり込んで、兵士たちにまぎれて、火のそばでうずくまっていました。

55 中では、イエスに死刑の宣告を下すための証拠集めに、祭司長やユダヤの最高議会の全議員がやっきになっていましたが、何も見つけることができません。 56 偽の証人は大ぜい名乗り出たのですが、証言がみな食い違っていたからです。

57 58 そのうち、とうとう何人かが、「確か、こいつが『人間の手で造られた神殿をこわして、人間の手によらない神殿を三日で建ててみせる』とほざいているのを聞きました」と偽証しました。 59 しかしこの点でも、証言は一致しませんでした。

60 その時、大祭司が進み出て、イエスに問いました。「おまえは、これらの訴えに答えないうもりか。 えっ、どうなんだ。 何も釈明する気はないのか。」

61 イエスは、ひと言もお答えになりません。 大祭司は続けて、「おまえは神の子、キリストなのか」と問い詰めました。

62 「そのとおりです。 あなたがたは、やがてわたしが神の右の座につき、雲に乗って、もう一度この地上に来るのを見るでしょう。」

63 64 この答えに、大祭司は、即座に着物を引き裂き、こう叫びました。「これだけ聞けば十分だ！ さあ、お聞きのとおりだ。 神を汚したこの男を、どうしよう。」こうして、イエスの死刑は全員一致で確定しました。

65 このあと、ある者たちは、イエスにつばきをかけたり、目隠しして、げんこつで顔をなぐり、「今なぐったのはだれだい。 さあ当ててみろよ。 預言者様」とあざけったりしました。 役人たちもイエスを引き取って、打ちたたきました。

66 一方ペテロは、下の中庭にいました。 大祭司の女中の一人が、 67 火にあたっているペテロに気づき、じっと見つめながら言いました。「あら、あんた。 ナザレ人イエスといっしょにいた人じゃないの？」

68 ペテロはそのことばを打ち消し、「変な言いがかりはよしてくれ」と言って、出口の

方へ行きかけました。その時、鶏が鳴きました。

69　すると女中は、またもペテロをしげしげと見つめ、そばに立っている人たちに、「ほら、あの人。あの人はイエスの弟子よ」と言いふらしました。

70　ペテロはあわててそれを打ち消しました。しばらくすると、火のそばに立っていたほかの男たちも、「おまえは確かにイエスの仲間だ。ガリラヤ人だからな」と騒ぎだしました。

71　ペテロは、「そんな男のことなんか、知るもんか。これがうそなら、どんな罰があたってもかまわないぞ」と叫びました。

72　するとすぐ、鶏が二度目に鳴くのが聞こえました。その瞬間、イエスのことばが、ぱっとペテロの心にひらめきました。「鶏が二度鳴く前に三度わたしを知らないと言います」ということばを思い出したのです。ペテロは激しく泣きくずれました。

一五

イエスの裁判、十字架の死、埋葬

1　朝早く、祭司長と長老、それにユダヤ教の教師たちからなる最高会議の全議員が、次の手はずをあれこれ協議した結果、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡すことに決まりました。

2　「おまえはユダヤ人の王なのか」というピラトの尋問に、イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。

3　そこで祭司長たちは、あることないことを挙げつらね、イエスを訴えました。4　これを聞いたピラトは、「どうして何も言わないのか。あんなにまで訴えているのに、平気なのか」と尋ねました。

5　しかしイエスは、ひと言もお答えになりません。これにはピラトも、驚き、あきれてしまいました。

6　さてピラトは、毎年、過越の祭りには、人々の願うままにユダヤ人の囚人を一人、釈放してやることにしていました。

7　たまたまこの時、暴動で人殺しをし、投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいました。

8　群衆はピラトの前に押し寄せ、例年どおり囚人を釈放するよう迫りました。

9　そこで、ピラトは尋ねました。「『ユダヤ人の王』を釈放してほしいのか。おまえたちが赦してほしいのはこの男か。」10　こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、彼の人気をねたむ祭司長たちのでっち上げによる、とにらんだからです。

11　ところが、祭司長たちも抜かりはありません。たくみに群衆をけしかけ、イエスではなくバラバの釈放を要求させたのです。

12　「バラバは釈放するとして、おまえたちが王と呼んでいるあの男は、いったいどうするつもりか。」

13　「十字架につける！」

14 「なぜだ。 ええっ、あの男が、いったいどんな悪事を働いたというのだ！」それでも群衆はおさまりません。 なおも大声で、「十字架につけろ！」とわめき続けます。

15 ピラトは群衆のきげんをそこねたくなかったので、結局、バラバを釈放することになりました。 イエスのほうは、先端に鉛のついたむちで打たせてから、十字架につけるために引き渡しました。

16 ローマ兵たちは、イエスを総督官邸内の兵営に引っ立てて行き、全部隊を召集しました。 17その目の前で、イエスに紫色のガウンを着せ、長く鋭いとげのあるいばらで冠を作り、頭にかぶせると、 18「よおっ、ユダヤ人の王様」とはやし立て、皮肉たっぷり敬礼しました。 19それから、頭を葦の棒でたたいたり、つばきをかけたり、ひれ伏して拝むまねをしたりして、からかいました。

20 こうしてさんざん笑いものにしたあげく、紫色のガウンをはぎとってもとの着物をきせ、いよいよ、十字架につけるために引き出しました。

21 途中、ちょうど、田舎から来合わせていたクレネ人のシモンという男に、むりやりイエスの十字架を背負わせました〔シモンは、アレキサンデルとルポスの父親です〕。

22 兵士たちは、イエスをゴルゴタ〔がいこつ〕と呼ばれる場所に連れて行きました。

23そこで、没薬を混ぜたぶどう酒（痛みを和らげる飲み物）を飲ませようとしたのですが、イエスはお断わりになりました。 24兵士たちは、イエスを十字架につけてしまうと、さっそくくじを引き、その着物を分け合いました。

25 イエスが十字架につけられたのは、朝の九時ごろでした。

26 イエスの頭上には、罪状書きが掲げられ、それには「ユダヤ人の王」と書いてありました。

27 その日、二人の強盗も、イエスといっしょに十字架につけられました。 二人の十字架はイエスの両側でした。 28こうして、『彼は罪人の一人に数えられた』という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。

2930刑場のそばを通りかかった人たちは、大げさな身ぶりをしながら、「ざまあみろ！ 神殿を打ちこわして三日で建て直すんだってなあ、そんなに偉いなら、たった今、十字架から降りて来いよ、自分を救ったらどうなんだい！」と、口ぎたなくイエスをののしりました。

31 祭司長やユダヤ人の指導者たちも、同じようにあざけりました。

「ふん、人を救っても、自分は救えないというわけか。」

32 「よおよお、キリスト様。 イスラエルの王様。 十字架から降りてみる。 そうしたら、信じてやろうじゃないか。」

イエスの両側で十字架につけられていた強盗までが、悪口をあびせました。

33 さて、正午にもなったころ、急にあたりが暗くなり、一面やみにおおわれました。それが、なんと三時間も続いたのです。

34 三時ごろ、イエスは大声で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。 そ

れは「わが神、わが神。 どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

35 近くで、その声を聞いた人の中には、預言者エリヤを呼んでいるのだと思う者もありました。 36 その時、一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含めると、それを葦の棒につけて、差し出しました。 そして、「さあ、エリヤがこいつを降ろしに来るかどうか、とくと拝見しようじゃないか」と言いました。

37 イエスはもう一度大声で叫ぶと、息を引き取られました。

38 するとどうでしょう。 神殿の幕が、上から下まで真っ二つに裂けたのです。

39 十字架のそばに立っていたローマ軍の士官は、イエスの死の有様を見て、「この方はほんとうに神の子だった！」と叫びました。

40 数人の婦人が、遠くから恐る恐るこの様子をながめていました。マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセの母マリヤ、サロメをはじめ、何人かの婦人たちです。 41 この女たちは、イエスがガリラヤにおられた時、いつもお仕えしていたのです。 ほかに大ぜいの婦人が、イエスといっしょにエルサレムまで来ていました。

42 43 以上の出来事はすべて、安息日の前日に起こったことです。 その日の夕方、一人の人がピラトのところへ行き、勇気を奮い起こして、イエスの遺体を引き取りたいと申し出ました。 その人はアリマタヤ出身のヨセフといい、ユダヤの最高議会の有力な議員で、神の国が来ることを熱心に待ち望んでいました。

44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったとは、どうしても信じられません。 ローマ軍の士官を呼びつけ、しかと問いました。 45 士官が死を確認したので、それではと、遺体の引き取りを許可しました。

46 ヨセフは亜麻布を何メートルも買って来ると、イエスの遺体を十字架から取り降ろし、布でくるんで、岩をくり抜いた墓の中に納め、入口は石を転がしてふさぎました。

47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが葬られるのをじっと見守っていました。

一六

イエスは復活した！

1 翌日の夕方、安息日が終わると、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤ、それにサロメの三人は、さっそく、イエスの遺体に塗る香料を買い求めました。

2 翌朝早く、日が昇るとすぐ、婦人たちは香料を持って墓へ急ぎました。 3 ところが、気にかかることが一つあります。 どうしたら、あの大きな石を入口から取りのけることができるのでしょうか。 道々、そのことばかり話し合っていました。

4 それがどうでしょう。 着いてみると、あの重い石はどけてあり、入口が開いているではありませんか。 5 中に入ると、右のほうに、白い着物をきた青年が座っています。 婦人たちはびっくりして、息も止まるほどでした。 6 その御使いがおもむろに口を開きました。「そんなに驚くことはありません。 十字架につけられたナザレのイエス様を捜しているのでしょうか。 あの方はもうここにはおられません。復活されたのです。ごらんな

さい。ここがあの方の遺体があった場所です。 7 さあ、行って、ペテロやほかの弟子たちに、『イエス様はあなたがたより先にガリラヤへ行かれます。 前もって言われたとおり、そこでお会いできるのです』と知らせてあげなさい。」

8 婦人たちは震え上がり、転がるようにして墓から逃げ帰りました。そして、あまりの恐ろしさに、この出来事をだれにも話すことができませんでした。

9 「さて、イエスの復活は、日曜日の早朝のことでした。 最初にイエスにお会いしたのは、マグダラのマリヤです。 彼女はかつて、イエスに七つの悪霊を追い出していただいたことがありました。 10 11 マリヤはすぐさま、悲しみに打ちひしがれて泣いている弟子たちのところへ行き、「大変よ！ イエス様は生きておられるわよ。 私、ちゃんとこの目でお目にかかったんですもの」と話しました。 しかし、弟子たちは、マリヤの言うことを信じようとしませんでした。

12 その日の夕方、二人の弟子がエルサレムから田舎へ向かう道を歩いていました。 そこへイエスが現われましたが、とっさには、だれだか見分けがつきませんでした。 以前とは違った姿をしておられたからです。 13 やっとイエスだとわかると、エルサレムに跳んで帰り、ほかの弟子たちに、この出来事を知らせました。 しかし、だれも二人の言うことを信じませんでした。

14 その後、十一人の弟子たちが食事をしているところへ、イエスが現われ、彼らの不信仰をお責めになりました。 「どうして、わたしが復活したと言う者たちの証言を信じなかったのですか。 全く頑固な人たちです。」

15 それから、こう宣言されました。 「全世界に出て行きなさい。 すべての人々に、このすばらしい知らせを宣べ伝えるのです。 16 信じて、バプテスマ（洗礼）を受ける者は救われます。 しかし、信じない者は、罪に定められます。

17 信じる人々は、わたしの権威によって悪霊を追い出し、新しいことばを語ります。

18 蛇をつかんでも安全だし、毒を飲んでも害はありません。 病人に手を置けば、病気は治ります。」

19 こう語り終わると、イエスは、天に上げられ、神の右の座につかれました。

20 弟子たちは、命じられたとおり出て行き、あらゆる所で、このすばらしい知らせを宣べ伝えました。 主が共に働いてくださったので、数々の奇蹟が起こり、弟子たちの教えの確かさが証明されました。]

■